令和５年度
とりこぼさない支援を考えるプラットフォーム

活動の足あと２

はじめに（昨年度からの経過）

長岡京市では、令和５年度から『とりこぼさない(重層的)支援体制整備事業』を本格実施するにあたり、令和４年度においては庁内での連携体制の整備、多機関協働事業の周知に取り組みました。それと並行する形で、制度・サービスでは対応できない「はざま」といわれる課題に対し、専門職だけでなく、地域住民や市内の活動者等と手をとりあって支援を考えていける「土壌」をつくるためのプラットフォーム構築を目指してきました。

「地域に居場所がある」、「必要としてくれる活動・人がいる」、「支援者同士が支援のノウハウを共有する機会がある」。そのようなことが制度・サービスの「はざま」にある人を支えていく土壌になるのではないかと私たちは考え、その「土壌」を豊かにしていくことを目指して、支援者・活動者がもっと自由に、もっと主体的に「つながる」ことができる場所をつくりたいという思いのもと、令和５年度は『とりこぼさない支援をうみだす交流会』を４回実施することができました。

このプラットフォームが、今後も継続的に、主体的に行われ、参画する人の手で育てられることで、「はざま」の課題にある人への支援がよりよいものになることを願って、この１年間のプラットフォーム実施の内容とその経過をここにまとめました。すでに参加した事がある人も、これから参加を考えている人も、本書に目を通していただき、「つながり」を一緒に考えていけるようになればとても嬉しく思います。

とりこぼさない支援を考えるプラットフォーム
コアメンバー一同

■目的の再確認と令和４年度プレ交流会からの継続

このプラットフォームは、支援者や活動者同士がつながる場、最初の出会いの一押しをする下支えの場です。それと同時にこの場が定期的にあることで、長岡京市が推進する『とりこぼさない(重層的)支援体制』の取り組み状況の理解や、参加者同士の意見交換や支援活動のノウハウの共有を促進することで、包括的支援体制を充実させていくことを目的として運営されています。

そのような場所の必要性は、昨年度プレ交流会を実施することによって再確認できました(「活動の足あと」を参照)。日頃感じている課題や一人（一団体）では困難なことに対して、お互いがつながりそれ以上の力を生み出すための主体的な場所を目指して、令和５年度も継続開催をすることとしました。

■コアメンバーおよびアドバイザー講師

乙訓もも	NPO 法人乙訓障害者事業協会	藤田　晃久
ステージ	NPO 法人こらぼねっと京都	小松　哲也
あっとホーム	NPO 法人てくてく	柴山　岳博
やよい工房	NPO 法人乙訓やよい福祉会	井上　譲
きずなグループ	（福）長岡京市社会福祉協議会	山田　日和
ゆあさ社労士事務所	企業	湯浅　卓磨
フェリーチェ	市民活動	篠田　優美
くらし連携担当	長岡京市地域福祉連携室	林田　文晴

アドバイザー講師
（一社）　Wellbe Design
篠原　辰二

■令和５年度　『とりこぼプラットフォーム』のあゆみ

第１回コアメンバー会議	第２回コアメンバー会議	第３回コアメンバー会議	第４回コアメンバー会議
日時	日時	日時	日時
令和５年４月２８日（金）	令和５年７月２６日（水）	令和５年１０月１１日（水）	令和５年１２月２５日（月）
トピックス	トピックス	トピックス	トピックス
▶『とりこぼさない（重層的）支援体制整備事業』に取り組む意味・価値を考える ▶プラットフォームが定期的に継続するためには	▶『とりこぼさない（重層的）支援体制整備事業』の理解の浸透 ▶プラットフォームの可能性を考える	▶プラットフォームからうまれてきた活動 ▶プラットフォームでの出会いにおけるマッチングの工夫	▶「とりこぼさない支援を考えるプラットフォーム」をもう一度考える ▶『とりこぼさない（重層的）支援体制整備事業』に取り組む意味・価値を共有する

第１回とりこぼさない支援をうみだす交流会	第２回とりこぼさない支援をうみだす交流会	第３回とりこぼさない支援をうみだす交流会	第４回とりこぼさない支援をうみだす交流会
日時	日時	日時	日時
令和５年５月２５日（木） バンビオ３階メインホール	令和５年９月１４日（木） バンビオ３階メインホール	令和５年１１月２２日（水） バンビオ３階メインホール	令和６年２月２２日（木） バンビオ３階メインホール
プログラム	プログラム	プログラム	プログラム
・プレイベント振り返り ・ワールドカフェ ・放課後タイム	・事例報告セッション （多機関協働事業ほか） ・テーマ別ディスカッション ・全員参加のフリータイム	※全員参加の活動マッピング ・事例報告セッション ・再びごちゃまぜワーク ・全員参加のフリータイム	※全員参加の活動マッピング ・事例報告セッション ・グループワーク ・全員参加のフリータイム

■令和５年度　第１回コアメンバー会議

【プレ交流会のふりかえり】

私たちコアメンバーは、昨年度のプレ交流会のアンケートや、参加者の声から「出会いの場」構築への共感を確認するとともに、参加者それぞれが、活動における運営・継続についての悩みや連携の難しさを感じていること、多様な活動者と意見交換をしたいという思いがあることを知りました。プラットフォームが活動をうみだす出発地点となるには、多様な参加者がいることと交流会が定期的に開催され、「出会いの場」があるという認知が不可欠であることを再認識し、令和 5 年度のプラットフォーム継続について議論を深めることになりました。

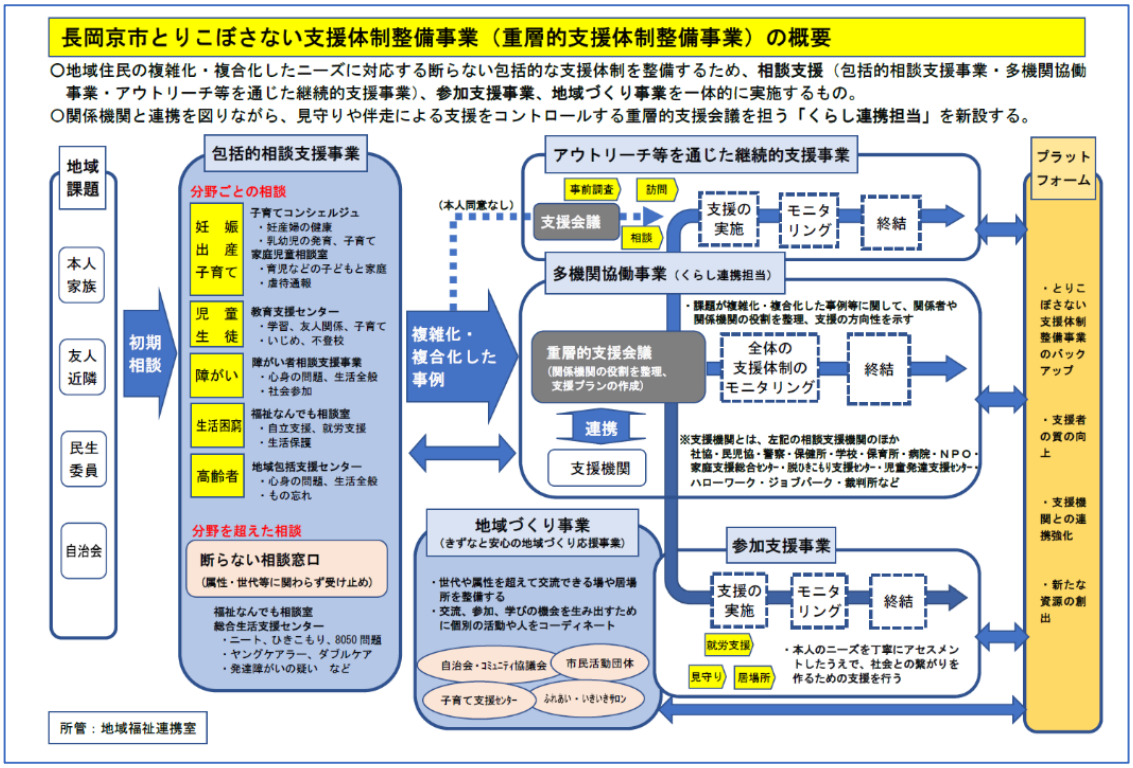
▶『とりこぼさない(重層的)支援体制整備事業』に取り組む意味・価値を考える

令和５年４月、市は組織を再編し、「地域福祉連携室（くらし連携担当）」が新たに新設されました。これは重層的支援体制でいう「多機関協働」を担う部署であり、そこには保健師・社会福祉士・教育コーディネーターの専門職が配置されることとなりました。複雑化・複合化した課題に直面する世帯に対して、各領域がバラバラに支援するのではなく、包括的な支援プランを立て進捗を管理しながら、時には地域の活動者とも手を取り合いながらその世帯を支援していく体制づくりが始まりました。

コアメンバー会議では、この体制整備とプラットフォームが補完しあう関係になることで、支援の土壌を育んでいくことにつながることを共有しています。福祉サービスや専門職だけが支援に取り組むことでは解決が難しい「はざま」の問題や複雑な課題は、行政・専門職・活動者などがともに重層的支援体制を理解・共有してこそ、その取り組みの価値が大きくなることを確認しました。

▶プラットフォームが定期的に継続するためには

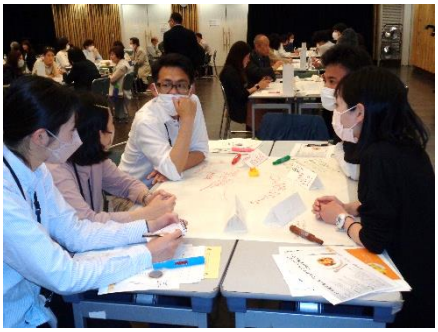
このプラットフォームが主体的な参加を前提とした、出入り自由な空間であることを周知する必要であると考えています。ですから、課題に直面している人たちの力になりたいという思いを持っている人たちだけの参加に限定するのではなく、自分たちの活動や事業をより良くしたい・つながりを増やしたいという思いがあれば参加できるという情報を多くの人に届けることを大切にしています。その間口の広さが参加者を増やしていくことにつながることを意識し、それぞれの思いを大切にできる「場」がプラットフォームであるという周知を続けていくこととしています。



■第１回とりこぼさない支援をうみだす交流会（参加：４９名）

第１回目の交流会では、昨年度のプレ交流会のふりかえりを行い、コアメンバーがもつプラットフォームへの思いを参加者に聞いていただきました。また「出会いの場」が実感できるワールドカフェ方式のグループワークを再度行いました。

【届け！コアメンバーの思い】



【ワールドカフェの様子】

■令和５年度　第２回コアメンバー会議

第１回の交流会において、アンケートから『とりこぼさない(重層的)支援体制整備事業』の取り組み内容や事例について知りたいという声があることを確認しました。また、「出会いの場」として、活動テーマを同じくする団体や、ひきこもりや不登校、発達障がいのある人たちを支援する団体など、さまざまな分野の人たちと出会える場になってほしいという期待があることも知ることができました。

▶『とりこぼさない(重層的)支援体制整備事業』の理解の浸透

参加者の声にもあった、実際の多機関協働事業の動きを知ることや、行政がかかわる複雑化・複合化した課題の事例を知ることが『とりこぼさない(重層的)支援体制整備事業』の理解の浸透につながるという視点から、多機関協働事業からの事例を紹介する場面をつくることを検討しました。

▶プラットフォームの可能性を考える

行政がかかわる事例だけでなく、このプラットフォームからうみだされる可能性についても事例を紹介したいという思いがありました。福祉サービスの利用者と地域活動がつながった事例や、高齢者支援と金融機関の連携から新しい活動がうまれはじめている。そのような相乗効果を参加者と共有することで、このプラットフォームでの可能性を考える時間を設けることにしました。

■第２回とりこぼさない支援をうみだす交流会（参加：５５名　見学：２名）

【多機関協働事業からの取組説明】

【金融機関との連携からうまれた活動紹介】

【テーマ別グループワークと発表】

【シノさんのちょっとコラム】

今、社会では介護や育児、就労や教育、住まいや経済など地域生活課題を抱える方が多くいます。中でも社会からの孤立や孤独を抱える方々の増加により令和５年６月７日には「孤独・孤立対策推進法」が公布されるなど、社会全体でこれらの地域生活課題への対応を図ることが求められています。長岡京やその周辺に目を向けると、同様の地域生活課題を抱える住民がいると同時に、より良い暮らしを築くために、仕事として、またはボランティアとして、あるいは当事者性を持つ市民として活動を行う多様な主体も存在します。「とりこぼさない支援を考えるプラットフォーム」はこうした多様な主体が出会い、情報を交換することで、新たな支援を生み出すことや互いの活動への相乗効果を生み出すなどの成果を生み出す場であり、本年度の４回の交流会でもその成果を共有する場面も多くありました。出会いと交流から支援を生み出す交流会のプロセスは長岡京の魅力そのものです。

Wellbe Design 篠原　辰二

私には、福祉分野の専門知識はなく、主に一般企業側からの視点で参加させていただいてきましたが、交流会きっかけで初めて知り合った方々から 経営上のお話を伺ったり、会食をしたり、寸劇に参加させてもらったりと、どれも貴重な出会いと学びの場となり、感謝です！

湯浅社労士事務所　湯浅卓磨

新コアメンバーのつぶやき　その1

■令和５年度　第３回コアメンバー会議

第２回の交流会では、つながりの事例紹介や重層図の解説をすることで、参加者の「もっとつながりたい」、「もっと知りたい」という声をいただきました。具体的には、「このプラットフォームでうまれたきた活動」や、「参加者にどんな人がいるのか」をわかりやすく、共有することが必要だということをコアメンバーで認識し、第３回の交流会実施に臨むこととしました。

▶プラットフォームからうまれてきた活動

プレ交流会を含め、延べ３回の交流会を経て、この場をきっかけに新たにうまれた活動や、出会いによるコラボレーションなどがあるのかをコアメンバーで情報収集をしてみると、子ども食堂を企画されている方の存在、フリースクールとフードバンクがコラボした話、前回テーブルを共にした方同士で事業運営の相談をされている話があるということが耳に入ってきました。これは是非次回のプラットフォームで報告いただこうということとなりました。

▶プラットフォームでの出会いにおけるマッチングの工夫

さらに、同じテーブルにならなくても、参加者同士で主体的につながることができるように、プラットフォームにはどんな人が来ているのか、どんな人とつながりたいと思っているのか、どんなことが得意なのかを参加者全員で共有できる工夫を検討し、『活動マッピングの取り組み』および『情報マッチングシートの活用』を取り入れることとしました。

■第３回とりこぼさない支援をうみだす交流会（参加：５４名　見学：５名）

【プラットフォームからうまれた活動や取り組み紹介】

≪フードバンク長岡京×フリースクール「十色」≫

・フリースクールに通う子どもたちの社会見学
・総合的な学習として、SDGｓの学習と体験の機会を。
・行動することで何かが変わる。社会に貢献できる自己肯定感
・地域の人たちと触れ合う機会の創出
・フードバンクをこどもたちにも知ってもらう

≪フェリーチェ×社会福祉協議会≫

【「はざま」の当事者が「断らない相談」によってつながった！】

≪合同会社つむぎ×L.I.G　Partners≫

【事業継続のためのお金の相談ができた！】

≪コミュニティカフェ「TOMOとも」≫

【子ども食堂に挑戦します！】

新コアメンバーのつぶやき　その2

プラットフォームの場に参加を重ねるたびに、「はざま」という言葉の意味の広さに驚きます。こんなこと、あんなことも「はざま」の課題なのかと。でも、違う立場の人と同じテーブルでずっと話続けていくと、根っこは同じなのかもと気づくことが多いのです。最近は、買物の途中でとりこぼの参加者の方と出会い、その場で「この間のあれさ･･･」なんていうことも増えてきました。今後は知ること、話すこと、思いついたらすぐ一緒に活動できる場所「いつでもとりこぼPFステーション」が欲しいです。

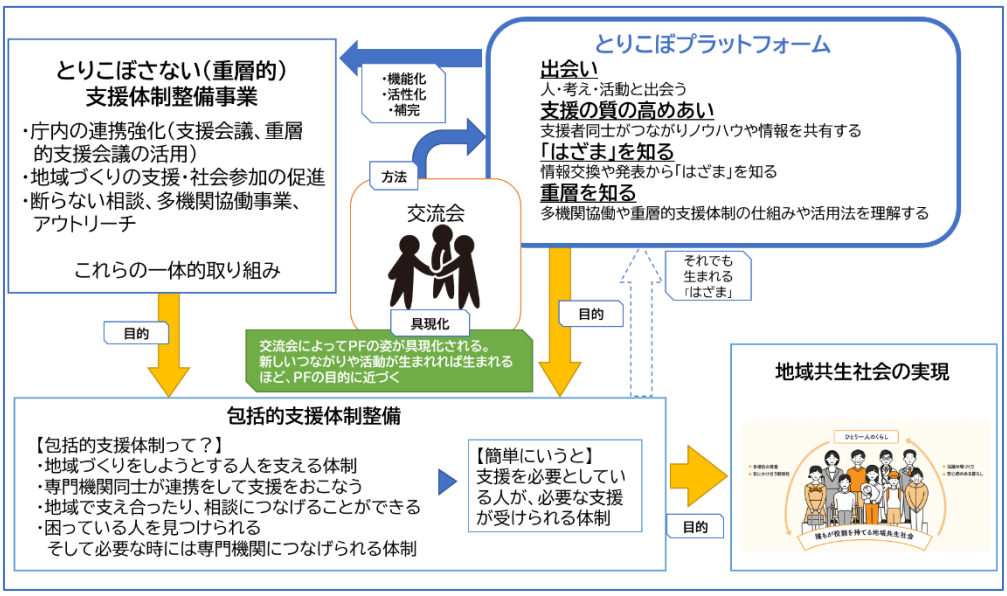
フェリーチェ　篠田　優美

【活動マッピング】それぞれの活動拠点を地図に貼ることで『見える化』！

■令和５年度　第４回コアメンバー会議

▶「とりこぼさない支援を考えるプラットフォーム」をもう一度考える

第３回交流会での、実際にうまれてきた活動の報告は、反響がとても大きいものでした。アンケートによると「制度にとらわれない活動を支える必要性」や「プラットフォームの活かし方は自分次第」、「普段であればつながる事が難しい異分野の団体同士がつながるプラットフォームの役割はすばらしい」といった前向きな声や、取り組みを評価する声をたくさんいただきました。一方で、「異業種交流会だと感じた。マッチングが出来たときはすばらしい」「高齢分野と子ども分野はまだ交わるのは難しい」「ここで活動を良くしようと思っている人たちに困っている人や当事者がつながる仕組みが必要だ」という声もあり、「つながる」ことだけが独り歩きしていないか、「つながる」場であることが評価されるのはうれしいこ



とであるが、それだけであれば行政が主導してつくるプラットフォームの意味があるのか。私たちが共有したい「とりこぼさない支援」についてもっと丁寧に伝える必要があるのではないかという葛藤と課題も残りました。

プラットフォーム構築の目的をコアメンバーでもう一度振り返りながら、今年度の最終となる第４回交流会でどのように参加者と「とりこぼさない支援」を共有することが効果があるのかを検討しました。

▶『とりこぼさない(重層的)支援体制整備事業』に取り組む意味・価値を共有する

プラットフォームの出発点は、制度やサービスでは解決できない「はざま」の課題に対して、専門職だけでなく、地域の活動者といっしょに考えながら、その支援や支え合いの土壌を豊かにしていきたいという思いです。行政が実施する『とりこぼさない(重層的)支援体制整備事業』を補完・推進しつつも、人と人のつながりでしかできない情報交換や手をとりあう関係性をつくっていくことに支え合いの土壌づくりのミソがあります。とはいえ、実際の「はざま」であったり、「複合的な課題」があったときに、どのように皆が手をとりあうのかの例示がなければ、「つながる」ことだけが目的化してしまう恐れがあることを踏まえ、コアメンバーで寸劇をしながら参加者といっしょに、事例を通して会議や支援の流れを確認していくことを丁寧にやってみようということになりました。

そのうえで、『とりこぼさない(重層的)支援体制整備事業』が目指す包括的支援体制や地域共生社会についての理解を深めていくことで、プラットフォームに参加している価値と、行政が体制整備に取り組んでいる意味を共有することができると考えました。

■第４回とりこぼさない支援をうみだす交流会（参加：６４名）

【コアメンバーによる寸劇】複合的な課題のある世帯への支援を検討する重層的支援会議の場面では、会場からの力を借りて、オーダーメイドの支援に踏み出すことが出来ました。専門職と地域活動が手をとりあうことが、このプラットフォームでの出会いから実現することを目指しています。

地域共生社会を知ることで、プラットフォームに参加する価値を確かめました。

【シノさんのちょっとコラム】

とりこぼさない支援を生み出すためには、制度のはざまに生きる人や支援することに困難を抱えている状況など、支援者同士が互いの情報を持ち寄る場が不可欠であり、交流会はその役割を担ってきたと思います。回を重ねるごとに自身の取り組みを紹介するフライヤーや日ごろの支援で用いているゲームを持参したりする主体的な参加者が増えているのがとても印象的ですが、一方でこの場に来ることができない支援者は支援の現場で孤立しているのかもしれません。そうした支援者の参加をどの様に支えるのかが今後の課題ではないでしょうか。

また、多様な機関が連携しながら地域生活課題の解決に向けて取り組む事例が獲得できたことは、取りこぼさないための支援方法が確立されてきた表れだと感じます。第４回で披露された寸劇は支援者のみならず市民に対する理解促進のための良い方法だと思いますが、コアメンバーだけではなく他の支援者を巻き込み、実際の支援に近い状況を題材にしたり、聴衆と一緒に支援の方法を検討するような一幕があると、地域が一体となった包括的かつ重層的な支援を生み出しやすくするのかもしれません。

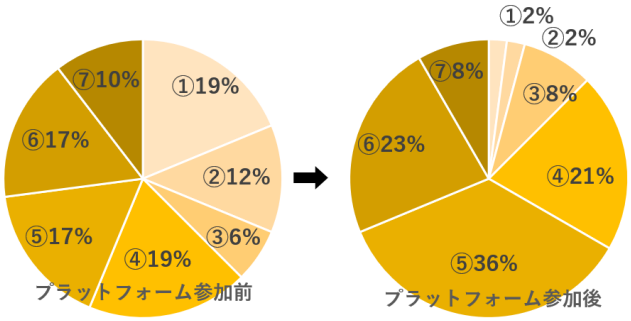
Wellbe Design 篠原　辰二

■令和５年度の活動を通して

令和５年度のプラットフォームは４回の交流会を実施することができました。報告セッションへの参加やPR タイムへのエントリーは１２団体となりました。昨年度のプレ交流会との明らかな違いは、参加型の企画が増え、皆でこのプラットフォームを作り上げているという実感が伴っていることです。それに加え、参加者数も増加し「つながり」の実感とともに『とりこぼさない(重層的)支援体制整備事業』への理解も徐々にではありますが、すすんできていることがアンケートによって示されています。

【とりこぼさない(重層的)支援体制整備事業への理解度調査】

①全く知らないし、聞いたこともなかった。今もよくわからない。
②耳にしたことがあり、長岡京市で取り組まれていることを知っている。
③包括的相談支援事業の機関や、多機関協働事業をどこが担っているか知っている。
④包括的相談支援事業や、多機関協働事業の役割を理解している。
⑤支援会議等のあり方や、参加支援事業等がどういうものか理解している。
⑥実際のケースの支援や会議に参加したことがあり、体制の全体像を理解している。
⑦回答無し



※重層理解度の指数は①～⑥の順に高くなる。

【報告セッション・PR タイム登壇団体（敬称略、順不同)】
・京都信用金庫長岡支店・共同生活援助事業所あっとホーム・フリースクール十色・フェリーチェ
・コミュニティカフェ〈TOMO とも〉・長岡京市社会福祉協議会・らふ Laugh 株式会社・合同会社つむぎ
・アットホーム訪問看護ステーション長岡京・L.I.G　Partners・フードバンク長岡京・ヴィキッズ

■次年度にむけて

「だれもが役割を持てる」地域共生社会に向けての支え合いの土壌づくりには終わりはありません。また、課題に直面されている人への支援体制についても完成はありません。昨今、生活困窮者支援や孤独・孤立対策をはじめとして、多くの場面で「伴走型支援」の重要性や価値が見直されています。それは、課題を解決するだけでは、その人らしさを取り戻したり、支えたりすることが難しい現状があるためです。課題解決に向かいながら、いつでも相談できる人・場所があることが、その人を元気づけたり、勇気づけたり、力を取り戻していくことにつながります。こうした価値が「伴走型支援」にはあるからです。同様に、日頃から支援業務や支え合い・地域活動をされている活動者自身も他の活動者と、つながり続け、ともに歩んでいくということが、支え合いの土壌を豊かにしていく上で不可欠ではないかと感じます。このプラットフォームを活用して、支援のノウハウや悩みを共有したり、新しい情報を得たり、勇気や自信をもらったり、新たな活動に共に取り組んでみようとチャンレンジすることが、目の前の困りごとを抱えた人への助けにつながっていくのだと思います。そんな「つながり」を作っていくことができるように参加していただいている皆さんと、さらによい取り組みにしていきたいと考えています。

▶多様な参加者が集うプラットフォームを目指して

これまでの交流会にも、専門職に限定されることなくボランティア団体や金融機関、労働分野、フリースクールや居場所の運営者など多様な事業・活動をされている人に参加をいただいています。しかし、参加者層の全体を見てみるとやはり福祉関係がその大半を占めています。「はざま」の課題にある人を支援する体制を構築していくために、居住支援関係団体や医療機関、様々な市民活動団体や地元企業などに参加を呼びかけ、広く多様な参加を目指していきます。

支えあいの土壌を一緒に考えてくださる方、コアメンバーに参画していただける方、次年度も「とりこぼさない支援を考えるプラットフォーム」への参加をお待ちしています！

かしこ暮らしっく
長岡京

ようこそ！とりこぼプラットフォームへ

とりこぼさない支援を考えるプラットフォーム（とりこぼPF）は、

皆さんが「とりこぼPF」を「作り」「育てる」というスタンスが大事です。

「継続」と「充実」の鍵は関わる皆さんの熱量です。

活動者・ボランティア・専門職が主体的に参加する「場」

参加者は「お客様」ではありません。また参加を強制されることもなく、出入りが自由です。

「つながり」を大切に人・考え・活動に出会える「場」

支援のノウハウ、新しい活動、可能性、アイデアなどたくさんの出会いを感じましょう。

あなたの「思いは」否定されません。他の人の考えに触れ、自由に発言しましょう

あなたの「思い」は大事な１つです。皆さんの「思い」が重なり合うことが大事です。

令和５年度
とりこぼさない支援を考えるプラットフォーム

活動の足あと２

作成
- とりこぼさない支援を考えるプラットフォームコアメンバー
- 長岡京市地域福祉連携室